



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙づて

うちの研究室では、国際学会で発表する大学院生に、MOVAを開講する。私(Mori)が英語発表のコツを短期決戦の個人レッスンで教えるのだ。洒落っ気のある大学院生が、駅前留学NOVAをもじって名付けた。

英語を話すことは音楽を奏でるようなもの。私の持論である。音楽はリズムを刻まないと成り立たない。

だから英語を話す基本はリズム感。クラシックからロックまで音楽に親しむ学生はむろん、体育会系の学生も、リズム感がある。どんなスポーツでも、リズムと身体運動が一体化しているからだろう。

重要なのはイントネーション。声の高低や強弱によるアクセントの付け方だ。へんてこり

もり え 森 郁恵

MOVA

んな巻き舌でrを練習する必要はない。英語を話す本質は、主張を正しく伝えること。決してrとーを正確に発音することではない。

「結果」を意味する「result」は、どう言えば欧米人に伝わるか。

「リ」を小さめの声で言い、非常に強く「ザウ」と言った直後に、声を出さずに「タツ」と発音するようにそっと息をはく。リザウ(タツ)。日本語では子音が続くことがない。学生はresultの二つ並んだ

子音rとtの後に、母音uをついっ入れてしまつ。「リザルツ」と聞こえる。「もう一度」「リザウ(タツ)」「ぞつ、いまの感じ!」

こんな調子でMOVAは進み、学生は本番を迎える。いざ発表となると、より緊張するのは教えた私だ。

(名古屋大教授)

2011.4.15